

仏説阿弥陀經の絵解き その4

「仏説阿弥陀經變相(善光寺藏版)」(嘉永元年 森田易信 筆による木版画)

「仏説」とは「お釈迦様」がお説きになったお経という意味。

「阿弥陀經」は浄土三部經の一つで、「阿弥陀仏」と「極樂」について説かれたお経。

「變相」とは「お経に文字で書かれてあることを、絵に変える」という意味。

極樂には、美しい鳥がさえずっています。

極樂には、沢山の鳥が住んでいます。

「是諸衆鳥 昼夜六時 出和雅音」と、阿弥陀經の中にあるように、一日に六回、優雅に鳴いて、仏教の教えを説いています。

この鳴き声を聞き、人々は「仏・法・僧」を念じます。

極樂には、さわやかな風が、吹いています。

その風で、樹木や網飾りが揺れて、美しい音色が聞こえてきます。

この音色を聴き、人々は「仏・法・僧」を念じます。

極樂は、このように美しいところです。



極樂の美しい鳥



迦陵頻迦という名前の鳥



共命鳥とい名前の鳥

先人が大切に育ててきた植木を枯らしてしまう結果になり、先人に対して申し訳なく思います。
話しは、この夏の暑さに戻りますが、納骨堂前にある手水鉢、うまく活用して、涼を感じられる様な演出が出来ないか、考え中です。植木も潤うと、なお良いのですが…。
何か良い案がありましたら、教えてくださいね。



納骨堂前の手水鉢

庫裏玄関前のつつじ



剪定し、適切に管理してきましたが、つつじの生命力が弱ってきたのでしようか。
私が住職を継いでから、銀杏の木や五葉松、もみじ等々、立派な植木を守ることが出来ませんでした。植木の生命力が弱くなった(「寿命が尽きた」とはいえ、

住職レター

梅雨が明けると、連日の猛暑。この暑さゆえの、身体のパテ気味度合、年齢増加に伴って増してきております。今年も、この暑さは辛く、もう既に夏バテ気味です。

この暑さが堪えるのは、人間だけではないよ

うで、庫裏の玄関前にある、立派なつつじ、どうも様子が変です。いつもの感じではありません。茶色くなった葉っぱが多く、おそらく暑さにやられたのかと思います。